

=====
◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol. 38 ◇◆
2011年10月28日号
=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介
2. 犯罪からの子どもの安全レポート
 - ・危機管理産業展2011スペシャル・カンファレンス「ソーシャルセキュリティ(SS)時代を生き抜く～3.11大震災後における市民安全の心技体～」参加レポート
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
 - ・国の取組み情報
 - ・イベント情報
 - ・見どころピックアップ！
4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・
5. 今月のキーワード
系統的レビュー(システムティックレビュー)

◆◆◆◆
東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、皆様の安全と一日も早い復興をお祈りいたします。

10月に入り、金木犀のやさしい香りと共に、各地で運動会の風景を目にする機会が増えました。スポーツの秋ですね。他にも、食欲の秋、読書の秋と様々ありますが、皆さまは、どのような秋を過ごされているのでしょうか。

毎年、防犯に関連した運動やイベントが数多く実施されるのも、この時期です。地区防犯協会をはじめとする民間協力組織・団体等と警察が連携し、犯罪や事故などのない安全で明るく住みよい地域社会の実現を推進する「地域安全運動」もその一つ。10月11日から20日まで、全国一斉に実施されました。

警視庁 全国地域安全運動

http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/seian/tiiki_2011/tiiki.htm

特に被災地では、この地域社会の再構築が大きな課題となっています。今月号のレポートでは、大震災後における防犯・防災を中心とした市民生活の安全設計をテーマとしたシンポジウムの様子をお伝えします。

また11月は、「子ども・若者育成支援強調月間」、「児童虐待防止推進月間」です。前者については、子ども・若者の社会的自立支援の促進、生活習慣の見直しと家庭への支援、児童虐待の予防と対応、犯罪や有害環境等から守るための取組の推進、児童の権利に関する条約に係る広報啓発活動の推進、地域活動に対する顕彰等が掲げられています。

後者については、東京、大阪をはじめ、各地でオレンジリボンキャンペーンが実施され、様々なイベントも実施されます。

内閣府 青少年育成
<http://www8.cao.go.jp/youth/ikusei/23kyoutyou.html>

オレンジリボン運動
<http://www.orangeribbon.jp/>

有害環境等から守るための取組みと言え、前回メルマガレポートで取り上げた京都府の児童ポルノ規制条例案が、10月7日に京都府議会で可決されました。規制は来年1月から施行されます。これにより、18歳未満の児童のわいせつ画像や動画の単純所持が禁止され、正当な理由なく所持していた者には、知事の廃棄命令が出せるようになりました。

京都府児童ポルノの規制に関する条例（仮称）（案）について
<http://www.pref.kyoto.jp/seisho/resources/1309827428947.pdf>

一方、警察庁の発表では、インターネット・ホットラインセンターが今年上半期にサイト管理者等に削除依頼した違法・有害情報の削除率が、前年度同期と比べて減少しているといえます。

違法情報：57.9%（前年同期79.0%） 有害情報：44.0%（前年同期67.3%）

平成23年上半期の「インターネット・ホットラインセンター」の運用状況について
<http://www.npa.go.jp/cyber/statics/h23/pdf03-1.pdf>

全ての問題が解決する、ということはありません。様々な運動やイベントを通じて、問題の現状を再認識することも大切です。

子どもの安全と健全な育成に向けて、実り多い秋でありますように！

1. 研究開発領域・プロジェクトの活動紹介

今月の領域およびプロジェクトの動きをご紹介します。まずは、領域の活動から。

今週末には、いよいよ領域合宿が開催されます。今回は最後！？と思われる当領域の合宿。例年通り、各プロジェクトの発表やグループワークを実施します。今回のテーマは、「成果の社会実装」と「自己評価」。今回はプロジェクトだけでなく、アドバイザーの皆さんにも「宿題」の提出をお願いしています。

この様子は、追って、次号のメルマガでご報告したいと思います。

冒頭でもお伝えした「地域安全運動」ですが、この運動の初日である10月11日は、「安全・安心なまちづくりの日」と定められています。今年、「子どもの見守りによる安全な地域社会の構築 ハート・ルネサンス」プロジェクトの実証地域でもあった大阪府堺市登美丘地区の防犯委員会が、安全・安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰を受けました。

受賞に伴い、10月23日には警察庁主催「防犯ボランティアフォーラム2011」が開催され、登美丘地区防犯委員会をはじめ、全国で先駆的に犯罪抑止活動に貢献しているボランティア3団体と、積極的な取り組みを行う2自治体が、日頃の活動について講演を行いました。講演後には、構成員の拡大方法や工夫等、活発な意見交換がなされました。更なる改善を図ろうという地域の方々の熱意が伝わってきました。

続いて、プロジェクトの紹介です。

「演劇ワークショップをコアとした地域防犯ネットワークの構築」プロジェクトでは、10月7日に、枚方市での社会実装に向けたコンテンツ研究会を実施しました。現在、コンテンツはテラーメイド。地域にフィットした内容を可能とする一方で、企画する人に大きく依存するため、実装・普及に向けては、どのような枠組みで提供するのか、ワークショップ手法だけでなく、防犯に関する知識なども含めた人材育成プログラムの開発や育成状況にも注目です。

「子どもを犯罪から守るための多機関連携モデルの提唱」プロジェクトでは、同じく10月7日に、中間報告会を開催しました。対象となる機関の方々に読んでいただけるよう、簡潔にまとめられた提言書の作成と政策提言、内容に対する社会的評価を残りの期間で得ていくことが望まれます。

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトでは、10月19日に平成23年度第3回全体調整会議を実施しました。成果の社会実装を目指して一般社団法人を設立した本プロジェクト。各モデル地区での取り組みから得られた知見を「防犯まちづくりのヒントとガイド」として統合し、Web上で公開しています。改善に向けて、社会的評価を得るための取り組みも計画中的のこと。メルマガをお読みいただいている皆さまも、是非一度、Webをご覧ください。

(一社) 子ども安全まちづくりパートナーズ
<http://kodomo-anzen.org/>

「犯罪からの子どもの安全を目指したe-learningシステムの開発」プロジェクトでは、10月24日に、第3回プロジェクト実施者会議を開催しました。

「子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」プロジェクトでは、市川市行徳防犯協会主催の防犯フェスタで、プロジェクト実施者が防犯講演会を行いました。

2. 犯罪からの子どもの安全レポート

- 危機管理産業展2011スペシャル・カンファレンス
「ソーシャルセキュリティ(SS)時代を生き抜く
～3.11大震災後における市民安全の心技体～」参加レポート
10月20日(木) (東京都 江東区有明 東京ビッグサイト 会議棟6階)

今回で7回目となる危機管理産業展(主催:東京ビッグサイト)。この中で、防犯・防災を中心とした市民生活の安全設計再構築を目指し、各界の有識者によるスペシャル・カンファレンスが開催されるということで、参加してきました。

当領域のアドバイザーも務める石附弘氏がコーディネーターをつとめ、5名のパネリストが講演を行いました。

パネリストの紹介も含めた概要はこちら：
<http://www.kikikanri.biz/conference/index.html> (KS-4)

「21世紀は、ソーシャルセキュリティ（SS）時代である。」
これは、9.11アメリカ同時多発テロを経験したジュリアーニ元NY市長の言葉ですが、石附氏は先の震災による被災地を訪れた際に、この言葉を強く意識するようになったそうです。

石附氏は、現代は事件・事故共に、色々なことが起こりうる時代で、安全は専門家に任せておけば良いというものではない、国も地域も事業者も市民も等しく情報を共有し、社会全体が備えなければならない、と指摘。「SS時代に、防犯を中心に具体的に何をすれば良いのか」と問題提起がなされました。

それを受けて元警察庁／(公社)日本防犯設備協会の富田俊彦氏が、「防犯と防災は車輪の両軸（安全安心に生きるために）」と題して講演。まちの防犯（安全安心）が復旧・復興の後押しになるとしたうえで、平時の防犯活動における絆づくりが緊急時に役立つこと、防犯・防災・環境・福祉・教育が連携して命・財産を守り、まちづくりをしていくことが大切であると述べられました。

近年、防犯カメラシステムを住民や従業員の一員として安全安心まちづくりに活用するようになってきている。こう述べられたのは、「防犯カメラの威力！防犯カメラの技術進化活用」と題して講演した(公社)日本防犯設備協会／TOA(株)の三澤賢洋氏。対象とするエリア全体を守るためには、どこに住民の目の代わりとなる防犯カメラを設置するかが重要だとのこと。実際の撮影画像を交えながら、防犯カメラの能力進化や活用方法について紹介されました。

玉川田園調布会（町会）の前田浩雄氏は、「防犯活動の結果と成果の可視化」と題し、エンジニアリングの手法を活用した地域安全活動について報告。継続的に効果を上げるためのポイントとして、「地域特性にマッチした活動方法を立案実行すること」や「無理や強制はしないこと」などを挙げました。前田氏らの活動は、下記のWEBで紹介しています。

「ぼうはん日本 防犯実践編 防犯エンジニアリング」
http://www.bouhan-nippon.jp/try/try12_23.htm

在日米海軍司令部地域統合消防隊の長谷川祐子氏は、「もう待てない！子供達に自分を守る翼を与えよう！」と題し講演。日頃、米軍基地在住の子ども達に火災を通じたサバイバルのクラスを教えている中で、危機管理に対する日米の備え方の違いを実感したといいます。アメリカの防火教育プログラムを例に、子どもが危機に遭遇した時に大人に頼るのではなく、自分の力と知恵で自身を守る事ができるように導いていく大切さを指摘されました。

最後は、当領域の防犯まちづくりに関するプロジェクトの実施者でもある(独)建築研究所の樋野公宏氏が、「新時代における安全安心まちづくりのデザインとは？」と題し講演。即効性、明確性が求められ、防犯にしか役に立たない防犯対策が近年中心となってきているのではないかと疑問を投げかけた上で、“〇〇+防犯” “防犯+〇〇”という多面的な取り組みを目指すべきだと指摘。他のパネリストの報告を総括するように、安全安心のまちづくりのポイントとして、ソフトとハードを組み合わせる必要性などを述べました。

3.11大震災後における市民安全の心技体という副題で実際された今回の
ページ(4)

スペシャル・カンファレンス。最後に石附氏は、「SS時代のまちづくりは、防犯と防災、防犯と福祉、交通と防犯、福祉と交通といった全体像の中で、そこに住む人々が自主的判断で安全意識の個別化がはかれるような地域の安全文化の創造を目指すべきではないか。最強の予防安全は、命の危機管理を図るところにある。」と締めくくりました。

報告終了後も、会場の周囲で熱心に話しこまれる方々がいらっしやり、参加者同士の交流も盛んな様子でした。分野の異なる有識者の方の最新の報告を聴くことが出来た有意義な時間でした。

(領域担当 S.T.)

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報

【更新情報】

●国の取組み

平成23年度「青少年の非行・被害防止全国強調月間」の取組結果について（内閣府）
<http://www8.cao.go.jp/youth/ikusei/h23kekka/index.html>

警察における取調べの実情について（警察庁）
http://www.npa.go.jp/sousa/kikaku/20111020_kekka.pdf

犯罪統計資料(平成23年1～9月分)（警察庁）
<http://www.npa.go.jp/toukei/keiji35/hanzai2011.htm>

電気通信事業における個人情報保護に関するガイドライン及び解説の改正案に対する意見募集の結果の公表（総務省）
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban08_01000048.html

平成23年度「地域とともにある学校づくり」推進協議会（熊本会場）実施報告（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/1312174.htm

麻薬・覚せい剤乱用防止運動について（厚生労働省）
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000073w3.html>

その他の取組みについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成23年11月19日
NPO法人発達障害支援ネット「YELL」
「～発達障害の理解と支援～『地域支援の輪づくりで、どの子にも笑顔を』」
<http://www.justmystage.com/home/ackenkyu/yell/katudou.html>

平成23年11月18日-19日
日本セーフティプロモーション学会
大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター
「日本セーフティプロモーション学会 第5回学術大会
第9回学校危機メンタルサポートセンターフォーラム

『安全推進情報の共有と展開をめざして』」

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~nmsc/safetypromotion/jssp5th.html>

平成23年11月18日-20日

独立行政法人科学技術振興機構

「サイエンスアゴラ2011～新たな科学のタネをまこうー震災からの再生をめざして～」
子どもも大人も楽しめる、盛りだくさんの企画が180以上。

<http://www.scienceagora.org/>

その他のイベントについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【見どころピックアップ!】

今月の見どころピックアップは、トピックスより
「国際犯罪学会 第16回世界大会 公開シンポジウムの取材記事」です。

公開シンポジウムに関するご報告ページは以前より掲載しておりましたが、
新たに取材記事を公開いたしました。前半の各登壇者による講演から、
後半の総合討論まで、シンポジウムの全体の様子が伝わる記事となっております。

是非ご覧ください。

トピックス 協働の広場

国際犯罪学会 第16回世界大会 公開シンポジウム開催報告

→http://www.anzen-kodomo.jp/column/kyoudou/khg_sympo16/sympo16_intvw.pdf

4. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

- ☆1位 プロジェクト関与者インタビュー
携帯電話、インターネット問題の怖さを子どもを見守る親の立場から
伝えたい
http://anzen-kodomo.jp/pdf/ad_04.pdf
- 2位 第4回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム 予稿集
<http://anzen-kodomo.jp/column/kyoudou/sympo04/yoko.pdf>
- 3位 プロジェクト関与者インタビュー
根拠に基づく犯罪対策を確立し子どもの安全を守りたい
<http://anzen-kodomo.jp/pdf/col17.pdf>

5. 今月のキーワード

「系統的レビュー（システマティックレビュー）」

この8月に国際犯罪学会 第16回世界大会で領域が主催したシンポジウムの中で、来場者から「司法面接についての系統的評価はありますか？」との質問が寄せられました。今月の見どころピックアップでご紹介する本シンポジウムの記事の中でも取り上げられています。

例えば、防犯カメラの効果に関する複数の研究があったとします。しかし、必ずしも同じ結果になるとは限りません。どう判断したらよいのでしょうか？

系統的とは、「順序立って組み立てられているさま」（デジタル大辞泉）。そして、レビューとは、「批評」「評論」という意味があります。

この2つの語彙が組み合わさった系統的レビューとは、従来のレビューや要約と異なり、世界中のデータ（論文）を収集し、そのデータを一定の科学的手続きに従って総括し評価することを指します。

もとは、エビデンスに基づいた医療（EBM：Evidence-based medicine）から始まったものですが、教育、刑事司法、社会福祉政策などの分野にも広がっています。

「何が有効か」に関する良質なエビデンス（根拠）を提供するための国際的な組織として、キャンベル共同計画があります。

キャンベル共同計画

<http://fuji.u-shizuoka-ken.ac.jp/~campbell/index.html>

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2011年10月28日

■発行元

（独）科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
